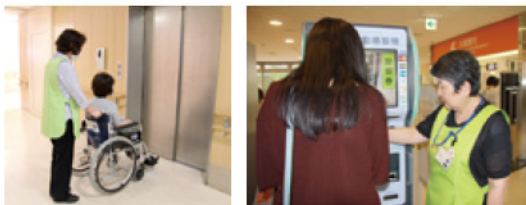


外来案内ボランティア

- 活動内容
 - ・ 初診の患者さんへの案内
 - ・ 自動再来受付機の操作説明
 - ・ 車椅子を利用する患者さんの診療科までの介助
 - ・ 目の不自由な方の診療科までの介助
 - ・ 見守りが必要な方の診療科までの誘導介助
 - ・ カートやベビーカーの貸出
 - ・ 診療科、検査室、採血室など目的の場所までの案内

- 活動日時
 - 月曜—金曜日（土、日、祝日を除く）
 - 8：30—12：00の間で都合のつく時間

- 活動場所
 - 九州大学病院外来診療棟 1階 玄関フロア



折り紙ボランティア

- 活動内容
 - 季節を感じさせる作品や子どもたちが大好きなキャラクターなどを一緒に折って楽しんでいます。作品は患者さんなどにプレゼントしています。

- 活動日時
 - 第2・4月曜日、第2水曜日 10：30—14：00

- 活動場所
 - 外来診療棟 2階 西ブロック前のギャラリー内



九大病院・馬出フラワーボランティア

- 活動内容
 - 花の手入れと季節ごとの花の植え替えを行っています。病院の患者さんやその家族に癒いや癒しを花々で感じてもらい、地区との交流を深めています。馬出地域の「花いっぱい活動」を基点としています。

- 活動日時
 - 第2・4木曜日 10：00—12：00

- 活動場所
 - 九州大学病院・馬出小学校・馬出公民館・福岡中学校



《ボランティア活動に関する連絡先》 患者サービス課/092-642-5981

病院にお越しの際は保険証をお忘れなく!

※保険証の表示がない場合には、保険での取扱いができません。



九州大学病院（病院キャンパス）は敷地内全面禁煙です。

■病院の理念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

■基本方針【理念に基づく実行目標として、下記の5つを掲げています】

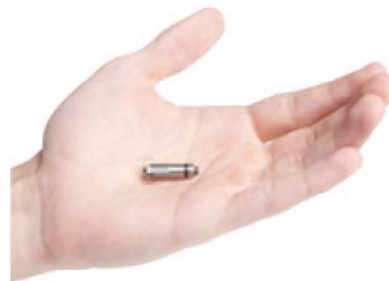
- ①地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ②プライマリ・ケア診療の充実
- ③全人的医療が可能な医療人の養成
- ④専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ⑤国際化の推進

九大病院だより

九州大学病院 広報委員会発行

世界最小 リードレスペースメーカーマイクラ(Micra)を今年9月から使用開始

—皮下ポケットも不要で、合併症リスクを軽減



心臓は1分間に約60—80回収縮して、休むことなく全身に血液を送り出しています。心臓には洞不全症候群、房室ブロック、徐脈性心房細動という脈拍が遅くなる疾患があり、ペースメーカー治療はこのような心拍が遅くなる徐脈性の不整脈に対して行われます。

従来のペースメーカーは本体部分と、心筋をつなぐリード（導線）部分からなり、鎖骨の下を通る静脈にリードを挿入して、心臓の中にリード先端を送り込み、鎖骨下胸部に作成した皮下ポケットに、リード後端を接続したペースメーカー本体を植え込み装着します（図1）。



図1 従来のペースメーカー

世界最小のペースメーカーマイクラ（Micra）は、本体を皮下に植え込むのではなく、カテーテルを用いて心臓内に本体を送り込み、直接右心室に留置できます（図2）。小さなフックで本体そのものを心壁に取り付け、先端の電極を通じて電気刺激を送り、ペーシング（機械で心臓を刺激して収縮させる）を行います。皮下ポケットの作成が不要のため、傷は下肢のカテーテル挿入時の小さな傷だけで、従来の手術期間より入院期間が短くて済みます。

従来のペースメーカーと異なり、胸部の皮下ポケット作成やペースメーカー本体と心筋をつなぐリードがないため、皮下ポケットやリードによる生活制限がなく、皮下ポケット感染やリード断線などの関連する合併症のリスクがありません。



図2 マイクラ（Micra）は直接、右心室に設置

このマイクラ（Micra）は、1.5テスラや3テスラMRI 全身撮像にも条件付きで対応します。また、電池の予測寿命は約12.5年で、電池交換の煩わしさからも一定期間解放されます。

九州大学病院では、今年の9月1日から、全国のいくつかの病院とともに一斉に、この小型ペースメーカーマイクラ（Micra）の植込みを開始いたしました。ご興味ある方は、下記までお気軽にお問い合わせください。



■心臓血管外科 外来

初診：火・水・金 ※紹介状、予約が必要です。
お問い合わせ：092-642-5565
※急患はこの限りではありません。
担当：心臓血管外科 塩瀬 明（科長）ら7名

▶▶▶ 診療科のご案内 ①

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科では、肝臓がん・転移性肝がんなどに対する肝切除、脾腫瘍・門脈圧亢進症による脾腫瘍などに対する脾臓摘出、食道胃静脈瘤に対する内視鏡を用いた治療、末期肝不全に対する肝臓移植を行っています。

肝切除術は年間160例以上を行い、わが国でも有数の症例数です。2016年から腹腔鏡下肝切除術に保険が適用されたのに伴い、当科でも腹腔鏡下手術を積極的に取り入れています。腹腔鏡を使用することで、傷が小さく、痛みも軽いため術後の回復が早く、早期の社会復帰が可能です。

一方、最近ではウイルス性肝炎を伴わない肝がんが増加しています。特徴は高齢者に多く、発見時には進行がんとなっていることですが、当科ではどのような進行がんでも最適な治療に対応しています。

肝移植術は生体肝移植と脳死肝移植を合わせて年間50例以上を行い、成人施設ではわが国で最も多い症例数で、90%以上の確率で救命することが可能となりました。

当科は肝疾患における西日本地域最後の砦と考え、日々の診療に取り組んでいます。

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科：<http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/shiryu/geka/02/2.html>



脳死下肝臓移植の手術

▶▶▶ 診療科のご案内 ②

口腔画像診断科

口腔画像診断科は、口腔・顎骨・顔面・頸部領域の病変や、咬合（かみ合わせ）・咀嚼（かむこと）・嚥下（飲み込み）にかかわる疾患に対する各種画像検査と診断を専門に行っています。

一般X線撮影検査では、おもに歯（デンタル）・上下顎骨（パノラマ）のほか、顎関節（シュラー）・副鼻腔（ウォーターズ）・咬合位（セファロ）などの撮影を行い、口を開けた時の顎関節の位置の診断、上顎洞炎の診断、歯のかみ合わせの位置の診断を行っています。特殊検査では、医用CT検査・歯科用（コーンビーム）CT検査・超音波検査・唾液腺造影検査・咽頭造影検査・MRI診断などを行っています。

腫瘍が疑われる場合は医用CT検査を行い、親知らずの抜歯やインプラント手術など歯や骨の状態を詳しく見たい場合には歯科用（コーンビーム）CT検査を行っています。さらに悪性腫瘍の場合には頸部リンパ節転移を早期発見するために、毎月一数か月に1回のペースで、超音波検査を追加して行っています。

院内のみならず、他医療機関からの一般X線撮影や画像検査依頼も受け入れ、依頼医のニーズに合わせた画像処理や診断も行っています。その他、放射線部と共同で口腔がんに対し、放射線障害防止のためのスパーサー（口腔内装置）を応用した放射線治療と、患者さんの口腔内管理も行っています。

口腔画像診断科：<http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/shiryu/dent/10/index.html>



コーンビーム

連載 メディカルスタッフを紹介します [24]

このコーナーでは本院の医療スタッフの役割を順次、紹介します

作業療法士（精神科神経科）

作業療法士は、病気やケガで障害を負った人を対象に、「作業（＝日常生活に関するすべての諸活動）」を治療の手段として、基本的動作能力・応用的動作能力・社会適応能力の維持改善を行い、「その人がその人らしい生活」を営むためのリハビリテーションを担当する専門職です。

九州大学病院に勤務する作業療法士のうち3名は、精神科神経科でのリハビリテーションを担当しています。入院治療では精神科作業療法を実施し、病状からの速やかな回復と退院後の生活を見据えた支援を行っています。また、外来治療では精神科デイケアスタッフの一員として再発予防や病状による生活の困難などの改善をはかり、社会参加につながるように、支援をしています。

今後も精神科医療のチームの一員として、患者さん本人の希望や意向を反映させつつ、回復段階に応じた支援を、多職種・他機関と連携しながら行ってまいります。



デイケア活動中のコマ

来院される皆さんの
安全安心に努めます

火災発生時に迅速かつ安全に患者さんを避難させることと、職員の防火意識を高めるため、去る10月16日に平成29年度消防訓練を実施しました。

訓練には医師、看護師、事務スタッフおよそ70人が参加し、北棟8階から深夜に出火したという想定のもと、初期消火訓練、各部署間と消防署への通報訓練、避難誘導訓練に取り組みました。

また、外来診療棟北側ウッドデッキに対策本部テントを設け、非常階段で8階から避難した模擬患者の点呼確認。避難状況を病院長へ報告した後は、初期火災時に重要となる消火器と補助散水栓の操作訓練を行いました。

九州大学病院では消防訓練を毎年実施していますが、今後もこれを継続し、来院される皆さんの安全と安心に努めていきます。



石橋病院長による講評



水圧が高い消火器補助散水栓のホースの扱いをスタッフが実際に体験

九州大学病院別府病院
診療放射線室

九州大学病院別府病院の診療放射線室は、放射線科医師4名、診療放射線技師5名、事務職員1名で構成され、各種画像検査や放射線を利用した治療を行っています。

おもな撮影業務は、一般X線撮影検査、X線透視検査、乳房撮影検査、心臓や血管撮影検査、X線CT検査、MRI検査、骨塩定量検査などです。また、カテーテルという細い管を血管内に挿入して肝臓などに抗がん剤を注入するがん治療（IVR）や、心臓の狭くなった血管を広げる血管形成術（PCI）、高エネルギーX線を体外からがん組織に向けて照射する放射線治療など、いずれも放射線を利用した身体に負担の少ない治療を実施し、大学病院として充実した検査、治療体制を整えています。

当室は九州大学病院本院（福岡地区）と専用ネットワーク回線で結び、放射線診断や治療をより確実なものとしています。さらに診療放射線技師も本院とローテーションしながら、つねに新しい知識や技術を導入しています。



心臓・血管撮影装置

九州大学病院クリスマスコンサートを開催します

毎年恒例の「九州大学病院クリスマスコンサート」が12月12日（火）17:00から、外来診療棟1階ロビーで開催されます。参加は無料です。

病気の治癒や回復に励んでいる患者さんやご家族にやすらぎのひと時をと、このコンサートを毎年企画しています。

今回は、来年2018年に創立65年を迎え、当主催の演奏会のみならず、多方面でも活躍する「九州大学男声合唱団コーラルアカデミー」による歌声をお届けします。

「もろびとこぞりて」「きよしの夜」「赤鼻のトナカイ」などのクリスマスを代表する名曲の数々が演奏されます。

冬の一夕を、心も歌声とともに過ごしてみませんか。

日時 2017年12月12日（火）17:00-17:45
場所 九州大学病院 外来診療棟1階玄関ロビー
お問い合わせ 九州大学病院 患者サービス課
TEL: 092-642-4850



昨年のコンサートの様子